

第12回 議会運営委員会記録

1 日 時 令和5年10月12日(木) 午後3時00分 開会

2 場 所 議会委員会室

3 出席委員 7名

委 員 長	霜 鳥 榮 之	委 員	宮 崎 淳 一
副 委 員 長	渡 部 道 宏	〃	阿 部 幸 夫
委 員	渡 邊 能 成	〃	横 尾 祐 子
〃	葭 原 利 昌		

4 欠席委員 1名

委 員 天 野 京 子

5 欠 員 0名

6 職務出席者 2名

議 長 関 根 正 明 副 議 長 小 嶋 正 彰

7 説 明 員 0名

8 事務局員 2名

事 務 局 長 阿 部 光 洋 庶 務 係 長 霜 鳥 一 貴

9 件 名

- 1) 広報広聴委員会協議結果報告について
- 2) こども議会について
- 3) 9月定例会の振り返りについて
- 4) その他

○委員長（霜鳥榮之） 皆さんご苦労様です。始まる前に報告ですが、今日は天野委員から欠席届が出ておりますので、今日は欠席ってということでご理解をいただきたいと思います。それではただいまから議会運営委員会を開会いたします。それでは、タブレットのサイドボックスより、委員会フォルダの中の議会運営委員会フォルダをお開きください。本日の議会運営委員会のレジメを含めた資料になります。この資料に基づいて進行しますので、よろしくお願いをいたします。議長。

○議長（関根正明） 本日は広報広聴委員会から、議会報告会・意見交換会と新井高校出前講座についての協議結果報告。それと議運として、こども議会と9月定例会の振り返りについて、協議いただきたいものです。よろしくお願いいたします。

1) 広報広聴委員会協議結果報告について

○委員長（霜鳥榮之） それでは最初に1）広報広聴委員会協議結果報告についてを議題といたします。広報広聴委員会からの報告を求めます。小嶋広報広聴委員長。

○広報広聴委員長（小嶋正彰） お疲れ様です。私のほうから広報広聴委員会、これまで3回やって参りましたので、その報告をさせていただきたいと思います。議会報告会・意見交換会についてでありますけれども、マニュアルでは年1回以上、3地域で行うというふうになっております。この件につきましては、4月に1回、3地域でやっておりますので一応クリアしておりますけれども、やはり7月にメンバーチェンジがありましたし、さらに開かれた議会を進めていくという上で、改めて開催させていただきたいと思っております。ただ今回につきましては、いろいろ8年間、平成27年に議会基本条例ができてその中で議会報告会・意見交換会をやるとなっておりまして、その次の年からやってきたわけですが、なかなかお集まりいただけないとか、意見が偏るとか、いろんな問題がございました。そういった中で、テーマを絞り込んだらどうかとか、或いは小グループで検討してはどうかとか、いろんなご意見が出ていましたけれども、なかなか実施に至らなかった経緯があります。そういったことを踏まえて、今回につきましては、より市民の皆様から多くの方から多様なご意見をいただいて、市政に反映していく。そういった機会に議員としても議会としても取り組んで参りたいというようなことから、市民生活に直結する身近なテーマを取り上げて、ワークショップといいますか、ワールドカフェというような方法で、小グループでひざを交えて対話を重ねるというような方向に、今回試行的にやってみてはどうかということでございます。この中では、今までの教室みたいな形で、質問に対して所管委員長さんが回答するのを基本としてやってきたわけですが、どうしても当局の代弁みたいな形の回答しかできない。それ以上のことがなかなか言えないというような部分もありました。今回はそういったものを一旦、脇に置いて、議員として、考え方、いろんな考え方があるということを市民の皆さんにもわかっていただく。それを、重ねていくことによって、議員力、議会力も高まっていくんじゃないかという考えから、方法を変えてみたいと思っております。ちなみに上越市ではもう大分前から、地域でやる私どもがやってきたような形をやっておりますし、平成28年だったかな、個別の団体やグループを対象にして絞込んで、例えば上越医師会だとか、子育てグループだとか、そういった特定の皆さん方や団体と意見交換をしているという事例もございます。そういったことを参考とさせていただきながら、より開かれた議会に向けて対応させていただきたいと思っております。お手元に意見交換会の進行案ということで、タブレットの中に入れていただきました。一応この進行案について概要だけ説明させていただきますが、大体参加者数については30名程度かなと思っています。議員10から15名、都合が悪い方もおられるかと思いますが大体そのぐらい、できるだけ多くの方からというふうに思っております。その他に市民の皆様方20名程度を想定しております。これについては事前に把握できるものであれば把握をしていく方法を考えているところでございます。場所はいきいきプラザの2階、老人憩いの家、大小集会室、畳の部屋です。これはテーマとも関係するんですが、テーマのほうの子育てを楽しめるまちづくりというふうに、子育て支援ということをメインに据えたいというふうに思っております。子どもさんを連れて来る方もおられるんじゃないかということで、畳の部屋にさせていただきました。形式としてはワールドカフェ、小グループを作って意見を共有すると、で30分対話したら一旦グループのメンバーをシャッフルして、また新しいメンバーで続きをやるというような。地域づくりでよくやっている手法ですが、ワークショップの一つの形態というふうに思っただければと思っております。役割分担についてですが、主に広報広聴委員会のほうで対応させていただきたいと思います。それから意見交換のテーマですが、今回については市民生活に身近な市政の課題、参加しやすいテーマということをメインに考えております。そしてそれをさらに市の当局でも来年度の組織改革の中で、子育て支援をメインにした組織改革をやるというような方向を市長が示しておりますので、そういった形の中に、こういう意見もありましたよと、こういうことを政策としてやったらどうでしょ

うかというような政策提言にまで結びつけられる形になるといいなということで、こういう子育てをメインとしたテーマ設定をさせていただきたいと思っております。ただこの場合、今までも子育て支援策っていうのは妙高市でもいろいろやってきております。そういったことも議員としても今一度、勉強しておいたほうがいいと思いますので、また全員協議会でお諮りさせていただいて、それでいけるなれば、資料のほうをタブレットにアップさせていただいて、一応目を通していただくことを踏まえて開催させていただければというふうに思っております。それからはぐっていただいて大体の進行ですが、日については11月18日を予定しております。土曜日の14時から開催させていただきたい。受け付けのほうは13時30分から、これは広報広聴委員でやります。それからそのあと今回の概要説明を私のほうでさせていただき、あと議会報告は議長のほうから概要について説明をしていただくということです。そのあと、意見交換ということで、30分を一つの単位としてグループ内でテーマに沿った意見交換をしていただく。そして30分経過後でグループ替えといいますか、シャッフルして、もう一度引き続きテーマをやっていただくと。そして最後にまとめの時間を設けるというような形にさせていただきたいと思っております。これをやった後の対応でございますけれども、ここで出たいろんな意見や問題点、そういったものにつきましては、広報広聴委員会のほうに持ち帰りをさせていただいて対応を協議させていただいて、また、議運、全員協議会に報告をさせていただきたい。その中で各所管委員会の中で対応できるものがあれば、また委員長さんと協議をさせていただいて、所管事務調査なり、そういった形で市民の考えを反映できるような施策に高めていきたいと思っております。以上概略ですが、ちょっと今回は変わった形でやらせていただきたいと思いますと思いますが、より多くの市民の皆様方から参加していただき、多様な意見をいただきたいという趣旨に沿った形で、広報広聴委員会で検討を進めて参りましたので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） ①と②については別々に皆さんのご意見を伺いたいというふうに思います。そんなことでただいまの報告に対して委員の皆さんからご意見等ありましたらお願いしたいと思います。メンバーの方は宮崎委員だけかな。

〔「葭原委員も」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） そうですね。他の方でどうですか。

○横尾委員（横尾祐子） 今、副議長から説明いただきました。しっかりとした計画性を持ったやり方なので、これできちんと取り組んでいただいて、市民の方から議会もしっかりやっているなっていう方向性が見えたらいいなと思いますので、これでいいかと思います。

○委員長（霜鳥榮之） はい。他にいかがですか。

○阿部委員（阿部幸夫） これまでのを振り返ってみますと、一番の課題は、参加していただく人達からいかに多く集まっていたかということだったと思います。今まではなるべく自主性を主体にやってきた部分があると思うんですが、やはり多くの人から参加してもらうためには、少し議員の方からも、改めてどのような形がいいのかを含めて考えたほうがいいんじゃないかなと思いますので、その点少し意見を交換させていただければと思います。

○委員長（霜鳥榮之） はい。他にどうですか。

○横尾委員（横尾祐子） 今年4月に実施した議会報告会で姫川原会場で担当だったんですが、子育てについてという題目も二つの題目の中のひとつだったんですが、非常に若いお母さん方が来て、いろいろ妙高市についての話を…。やはり、私たちが育ててきた環境とは違っていること、また、子どもに対して非常に熱意を持ってお母さん方が多いので、しっかり回答できるような形で取り組んでいく必要があるんじゃないかなと思います。

○委員長（霜鳥榮之） 暫時休憩します。

休憩 午後3時14分

再開 午後3時23分

○委員長（霜鳥榮之） それでは、休憩を解いて会議を続けます。今それぞれのところから細部にわたっての意見もありました。広報広聴委員会のほうでは、この後まだ16日に委員会を開いて、全協に対する準備もつていう形があるようでございます。それに備えた委員会になるんだろうというふうに思うんですけども、今出た意見も十分にそこへ含めながら、或いはその必要に応じて、全協の中では全議員にきちんとお願いすべきことはお願いする、というような形の段取りをやっていただければというふうに思います。その他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） はい特段ないようですので、①に関してはそのようなことでよろしく申し上げます。それでは次に②新井高校出前講座の関係についてお願いいたします。小嶋広報広聴委員長。

○広報広聴委員長（小嶋正彰） ありがとうございます。2番目の新井高校出前講座ですけれども、昨年初めて開催させていただいて、新井駅に学習室を設けるというようなことで一定の成果を上げたというふうに思っております。そういったことから、今年も引き続きやらせていただきたいと言うことで、9月の末に、私と今田副委員長、事務局で、新井高校に行って校長先生と教頭先生にお話をさせていただきました。いや、ぜひやらせていただきたいということですし、高校のほうも主権者教育というようなこともありますし、18歳、高校3年生では投票する方もいるわけですので、ひょっとすると7月の市議会議員選挙に投票した人もいるというようなことがありますので、開催をしたいということであったわけですが、ただ、時間的に、3年生は受験を控えているということですし、私どもも春から話を進めていければよかったんですけども、なかなか7月がありましたので、今年についてはできなかったという事情もございます。そういった中で、今すぐつてのはなかなか無理だろうということになりました。ただ高校側としましては2年生の必修科目の中で、今年から公共という単元ができたんだそうです。公共ということになりますといろいろ広い意味での公共ですので、その中の一つで地方行政っていうのもあるということでありましたので、そういったものとリンクさせてやると非常に効果が大きいんじゃないかと。理解が進むんではないかというようなご意見をいただきました。それを踏まえた上で開催するとなると、1月か2月の上旬ぐらいしかないわけですけれども、やっぱりその時期はどうしても雪の心配をしなきゃいけない。電車通学をしてる中で電車が通らないというような懸念もありますし、なかなか難しいというようなお話でありました。そういったことから、この出前講座につきましては、そういった2年生全員を対象とすると150人ぐらいだそうなんですけれども、そういった皆さんを対象にして、来年度、4月以降ですね、改めて仕切り直しをして、事業の進み具合とリンクさせた形でより効果の高い私共にとってもより良い意見をいただけるような、そういういう形で再検討するというような形になりました。従いまして今年度はちょっと見送りということになりますが、来年度に向けて準備を進めていきたいというふうに思っております。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） はい。ただいまの報告に対して、何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） 特段ないようでございますので、そのようをお願いをしたいと思います。

2) こども議会について

○委員長（霜鳥榮之） それでは次に、レジメ2) こども議会についてということでお願いをいたします。こども議会については、私のほうで報告をさせていただきます。レジメに基づきまして、①ですが、こども議会については、教育委員会から対象校は妙高高原中学校でということでした。それで、先週の10月6日に、議長、局長と一緒に校長に会って簡単な概要説明を行いました。日程については再度学校側で検討したいとのことで、今週連

絡をもらえるようになっております。連絡があったようでありますけども、後ほど報告させていただきます。内容については皆さんと共有を図りたいと思っております。次に②今後の対応についてですが、学校側の考えにもありますが、我々が学校に出向き、一般質問の作成支援をする必要も考えられます。その後、中学生から一般質問の通告をもらいます。その質問を、今度は所管の常任委員会へ割り振り、各委員会では、議長が市長役、副議長が教育長役の答弁書を作成し、再質問に対する対応の検討を行ってもらうことになります。そして当日のこども議会の運営ということになります。これらこども議会に関することは、③になりますが、タブレットの委員会、議会運営委員会、こども議会フォルダの中に、昨年度、新井中学校を対象にして実施した資料が保存されていますので、確認をしていただきたいと思います。今後の対応については、妙高高原中学校と具体的な打ち合わせを行い、皆さんと協議をしながら進めていくことになりますのでよろしくお願いをいたします。それでは妙高高原中学校からの連絡の関係で局長、お願いいたします。

○事務局長（阿部光洋） すいません。ちょっと昨日から出張してまして、レジメのこの資料の調整ができなかったもので、この場で報告させていただきます。妙高高原中学校からの連絡なんですけども、出張中に小林校長先生から連絡がありました。検討した結果として、今年度中に実施するのは難しいというお話でありました。学校として、翌年度の春から予定し、新井中で行った時期に開催できればとのことです。春から授業の中でしっかり地域の勉強をして、こども議会に向けた取り組みを進め、秋に開催でお願いしたいとのことでした。ですので、今後、令和6年度の開催に向けて取り組みを進めていただくことになりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） はい。ということでございます。この件について皆さんのほうから何か、ご意見等ございますか。

○宮崎委員（宮崎淳一） 子どもさんたちの授業の進み具合ですね。その中でこのこども議会の開催っていうのをよりよい形で進めるというのは、子どもさんたちにとってはいいことなんだろうと思います。それで皆さん、子どもさんたちが、その地域の実情を知る時間っていうのも、やはり必要であります。我々議員もそうなんですけども、こういった学校の意向に従って令和6年度の開催というのが望ましいというふうに思います。

○委員長（霜鳥榮之） 先日、高原中学校を行って校長先生と懇談をした時に、校長先生のほうは、事前の情報をこっちも入れてなかったっていうのありましてね。入れてなかったそもそも論は、やっぱり7月の改選がありまして。そのあとすぐもう9月議会でということで、結局具体的には9月議会終わってからっていう中身になってる関係の中で、改めて高原中の小林校長先生が中身を見たら、気楽に考えてたけどそんなわけにいかない状況だと。それは何かっていうと、昨年の新井中学校の資料を見た中では、そんないい加減で取り組めるようなことじゃないし、時間のやりくりそのものもここまできちゃうとなかなか大変な様相だったと。検討はしてみますけどもっていうそのときの対応であったわけです。我々のほうも、なかなか時間のやりくりが、ここへ来て大変だったという部分もあったりしますので。新井高校の出前講座と同じように改めて仕切り直しという形でいくようになるのかな。ただこんな中で、私は高原中学校とのお話はこのまま続けていくということで、6年度にやるにしても、高原中学校にお願いをして、で、もう準備を。前々準備から含めて準備をしていくというような形で進めていきたいというふうに思うわけです。従って、今年度はちょっと無理で、今回は無理だよっていう形の中であっても、次年度のこども議会については高原中からやってもらうということを改めてまたお願いしておきたいなというふうに思っているところです。このようなことで進めさせてもらってよろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） はい、そのようにお願いをいたします。

3) 9月定例会の振り返りについて

○委員長（霜鳥榮之） それでは次に、3)の9月定例会の振り返りについてを議題といたします。タブレットの資料3、9月定例会の振り返りをご覧ください。9月定例会から運営方法を大きく見直しましたので、この資料をもとに、皆さんから感想やご意見等いただきたいと思います。見直し後の初めての定例会でした。不慣れという部分もあったかと思います。大幅な見直しのため、最低限、1年間のワンサイクル、いわゆる9月、12月、3月、6月定例会までは通してやってみないと判断できないこともあるかと思いますが、今回の9月定例会についての振り返りをお願いしたいと思います。それでもってまずは1番目に、本会議の①総括質疑についてです。実質的な審議は委員会で行うべく、本会議では、すべての議案を一括して議題とし、事前通告制及び3回までの回数制限などとし、会派代表が行うようにしました。意図的に大所・高所からの質疑となるように、委員会質疑との区分けを意識してもらうような取り組みとしたものです。皆さんの所感をお願いしたいと思います。それでは、その資料を見ながら、皆さんからご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○宮崎委員（宮崎淳一） 今回の総括質疑なんですが、大幅に変わった。その中で一括した質疑というのは、私はいいと思いました。確かに時間、要は審議をなんていいですか、時間を有効に活用するという考え方で大変よろしかったのではないかと思います。ただ、私は再質疑の回数制限に対してはちょっと違和感がありました。というのは、実は再質疑する際に、それを一括となりますと、なかなか所管の行政側のほうがどうしても指をさして目で合図してと迷ってしまうようなこと。それとなかなか質疑という形にならなかったんじゃないのかなというようなことが私の実感であります。その中で時間制限が設けられておりますので、再質疑に関しては回数制限を設けず、再質疑は一問一答、そちらのほうか或いは傍聴に来られてる方、或いはテレビ画面で見られてる方のことを考えますとそちらのほうかひょっとしたらわかりやすいんじゃないのかなと。我々もおそらくそちらのほうかわかりやすいというように私は感じました。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） 先にあれですね、総括質疑をやった人でもって、阿部委員。

○阿部委員（阿部幸夫） 遅くなりました。今宮崎委員も言われましたが、私も初めて総括質疑したんですが、なかなか自分の思う通りにうまくいかなくて尻切れとんぼで終わってしまったというのが実状だったというふうに思います。それはやはり自分としてもう少し、その総括の流れっていうか、再質疑との関係をもう少し、かみ合わせ等々を理解しておけばよかったんですが。常に3回3回という頭があって、その時は非常に混乱をした部分が少しありました。それと質疑項目についても少し多く挙げ過ぎた部分もあって、もう少し絞った形でやりとりをして、深みのある、市民から見て、ああなるほどなという形になればよかったと思うところです。今後はそういったところを少し実践を踏まえながら、内容についていろいろ整理していきたいと思います。その2点についてが一番大きな点だったと私は思っています。

○宮崎委員（宮崎淳一） 質疑に対しての答え。答えというのはおそらく皆さん、事前におそらく何らかの形でお聞きしてるのか、或いはおそらくこういったことで答弁が来るんだろうなというのは予測しているはずだと思うんです。それに対してどういう答えを望んでるかっていうのは、皆さん議員さんがそれ考えて、それに対して、予測に対して再質疑するというのが、おそらくそういうことだと思います。ですが、ただ常任委員会があって、常任委員会の審議があるその前に提案説明があつての総括質疑なので、それを考えたときに、あまり踏み込んだ形で再質疑するという形になりますと、なかなか常任委員会の審議に対して影響を及ぼすのではないかなと。そういうところで考えますと、大枠の中でちょっとこれは、この全議員がいる中で質したほうがいいということに対しての再質疑であれば、私はそれで結構だと思いますが、あまり深くなりすぎるともうそれはそれでちょっと問題あるのかなというふうに感じます。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） 他に、じゃあ聞いていたっていう形の中で総括質疑、ああいうパターン初めてですんでね、初めてああいうパターンでやって、さっきもありましたけども3回制限っていう形にこだわってしまって、再質問は呼び方は本来再質疑なんですけど、その辺のところでもって、あのやり方について聞いていた皆さんからの意見もいただければと思いますが。

○渡邊能成委員（渡邊能成） まず今回党派代表の方が、同じ党派の方々の質疑を取りまとめて実施されていると思いますけども。何かバーッと党派の代表の方が幾つも質問をバーッと投げつけて、それに対して幾つも幾つも回答を受ける。で、多分その質問している方も回答を全部、この質問こういう回答だったみたいなバーッと書いたり覚えたりするのって本当に大変なんだろうなというふうに見ていて思いましたし、例えば、再質疑するにあたっても、うまいように再質疑ができないという。いただいた回答をもとに、それを咀嚼して、再質疑するわけですけども、宮崎委員が先ほどあらかじめ、こういう回答が、答弁が来るだろうというふうなこともおっしゃいましたが、確かにおっしゃる通り。ただ、答弁受けて自分で予測していた答弁以外のこともあると思うので、あれだけの質問数をあの短時間でバーッとメモしたり、覚えて、さらに再質疑することは結構大変であるし議論が正直深まらないと思いましたね。さっき宮崎委員もおっしゃいましたが、見ている方々も、あれを見ていて、こういう議論だったんだって納得する方は多分ほとんどおられなかったんじゃないかなと思います。あともう一つ。党派の代表が皆さんの意見を取りまとめ質問されているんですけども。私の質疑を霜鳥さんをお願いして霜鳥さんが質疑しましてそれを再質疑しました。ただ、私が例えばいろいろ知っていることを代わりに霜鳥さんが質疑されていて、それに答弁を受けて、うまい再質疑というか、スムーズな再質疑というのはやっぱり難しいと思います。だから、私、総括質疑を見ていて、本当にちょっとこの形がいいのかなと、これじゃ議論が深まらないなということは感じました。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） はい。他にどうですか。

○葭原委員（葭原利昌） 初めての試みで、私は総括質疑のあり方そのものが、いやいや、そういうものだというふうに分り切ればいければ、そういうことなんだろうなと。深みとか、突っ込んだその議論を求めるのか求めないか、なんだろうなというふうに思ってます。受けた印象からすると本当にその前までのやり方、いわゆる予算で市長答弁じゃなくて各課長が答え、深みのある突っ込んだ一問一答でやってたほうが、それは確かによかったというふうには思いますよね。だけでも皆さんのところで総括質疑というスタイルにしたんだというふうに理解してましたからね。だから、いや、それはまあそうなのかなと。そういうところで、全体的な話の中で当初予算に対する、決算っていう視点での全体的な質疑、総括的な質疑なんだというふうに…。なので私はそういうふうに分り切っています。そこだと思うんですね。

○横尾委員（横尾祐子） 初めての取り組みということで、前の議運のほうで決められたわけなんですけど、どういうふうになるかなと思って、私も今回、党派代表として宮崎委員がやってくれましたけど、なかなかああいう立場になって自分ができるかなと思ったらちょっとできないなって聞いていました。本当に渡邊能成委員のおっしゃる通りに答弁されても次の質疑がすぐ出てこない。もうそういうもんかなと思ってするんですけども、思っていない答弁された場合、すぐ出るかなという感じがしましたし、聞いて待っている、答弁待ってる人たちも、まさにかちかちになっていて、とてもかわいそうだなという感じがしました。まあ、回数を行っていただければいいのかなと思うけども、すごくその方に負担があるなって感じた総括質疑だったと思います。

○渡部道宏委員（渡部道宏） 私は葭原委員と同じで、総括質疑の形としては、各党派のほうで多分、これを決着点とか、これを勝ち取るための質疑にするんだと。それで質疑した後で出てきた答弁はもう総括なので、そこに達していなければ、じゃあこれをついて再質疑レベルにして、それよりもっと議論を深めるっていうところまで多分3

回だから行かないと思うんですよね。だからそのものを勝ち取れるか勝ち取れないかって話で、ちょっと組合的な話になって申し訳ないんですけども、それで勝ち取れなければそれに見合うものをどうするかっていう再質疑レベルでしかないと思うんだよね。それを今後どうしていくかっていうところは、今度全部それは委員会のほうに譲っちゃって、あくまでも大枠の中でこの部分を実現させたいと。だけでも答弁としてはその部分は実現できない。何が問題なの。ここだよ。じゃそこをどう解決するの。それはこれから検討するよ。ぐらいまでしかいかないと思うんだよね。だからそれが本当の意味で今回のこの総括っていうイメージなのかなって思ってたんですわ。なのでちょっと今回様子見で手控えさせてもらったんですけど、なるほどと思いました。ありがとうございました。

○委員長（霜鳥榮之） 私も、いくつかの違和感があったんですけども、とりあえず今回はやってみようっていう形でスタートをしてるわけですよね。まず最初っていうのは総括質疑。質疑っていうのは一問一答でやりとりしないと質疑になるのかっていうのが一つあるんですね。で、いうなれば今回やってるっていうのは、国会でやってるように代表質問でしかないということだと思うんですよね。だから、総括質疑っていえるのか、総括質問っていうふうにするのか、この辺のところは、今後、また改めてっていう形だと思います。当局もこのような形でもって、今振り返りやってますんで、後程またすり合わせでもって調整していくってなります。総括っていう形になってますから、事業、具体的な中身云々というよりも、取り組み姿勢でしかないよということになっちゃうんですよね。それ言ったときに果たして先ほど宮崎委員からも出ましたが、質疑質問するって言った時には、その見返り答弁そのものをどの程度のものを期待していくかってのは当然あるわけで。それが総括質疑でもって代表質疑やってるっていうその人だけじゃなくて、議員全員がね、出された課題について、この次は委員会の中でその不足を議論していかなきゃいけないんだよっていう、こういう姿勢に立ってないと。ここで総括質疑やったって個人のもんでしなくなっちゃうと。そういうもんじゃないよっていう位置付けを皆で認識しなければならないのかなというふうに思います。それからもう1点は、先ほどやった人はみんな、あそこでやった人は皆そう思うんだけども。3回っていう回数制限でやっていて、もうとにかく項目幾つあろうと、とにかく最初から最後まで通していかないと、その権利がなくなるよっていう形にしまうと、議論してみようがないということで、ここも時間制限があるんだから、回数制限についてはどうしたものかと。ただ、先ほど言われたみたいに、そんな細かいとこまで張り合わないんだからいいよっていう。だけでも、そうすると、質疑、要するに中身を議論してくっていう意味合いはどこにあるのかっていうあたりの検討もしていかなきゃいけないのかなというふうにあったりするんで、この辺のところは、今回やってみての課題なのかなというふうに思っています。できればですが、今の形式そのものをね、どういうふうに持っていくかっていう形あるんですが。まあまあ、やってる人も、答弁する人も、見てる人もわかりやすくっていうと、今の一般質問形式で最初はバーツと全部やっちゃうけども、そのあとは一つ一つ一問一答のそれこそ質疑をしていくっていう、このほうがいいのかと。時間で制限されますからね。その辺はまた、みんなでもって検討しなきゃいけない課題かなというふうに思っております。なんか言いたい？。はい、それでは一通り委員の皆さんからご意見いただきましたんで暫時休憩をします。

休憩 午後3時53分

再開 午後3時57分

○委員長（霜鳥榮之） 休憩を解いて会議を続けます。ワンサイクル回ってからっていうことで、1年間様子を見るっていう形も含めてなんですが、当局のほうもね、振り返りをやってまして、答弁するにあたって、一括で来た時にいきなりドーンてくるってなかなかっていうような声も聞こえたりもしてますので、この辺のところは、後程また皆さんから振り返りの用紙ですね、皆さんのところに送ってある、ここに出てるこれなんですけど、ここもそれぞれに書いて提出していただいて、全協の中でも皆さんに報告しながら、改善方法、意見等を集約して、そのあとに

当局ともまたすり合わせしてという形でもって、順次進めていければというふうに考えております。その他にこの本会議、総括質疑の関係について、何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） はい。なければ、総括質疑については、このような形でもって取り組みを進めていきたいと思っています。次に②の一般質問についてなんですが、いかがでしょうか。

○宮崎委員（宮崎淳一） すいません。先ほど委員長おっしゃられてました。なかなか時間がないというようなところが第一印象でした。初日に総括質疑ということで、なかなかそういったことも、定められたルールの中でその期間が設けられているというところなので、逆にそういったルールを皆さんと改めて検討しなきゃいけない期間に入ってきてるのではないのかなあというような印象があります。ですが、ただ一般質問に関しては今回はそれはそれでいいのかなと。ただ一番後にまわしました。その一番後にまわしたことに對して、逆に市民の皆さんがどういうふうに見ているのかと。当局はどのように判断されているのかというのは、ちょっと様子を見ながらやっていかなきゃいけないのではないのかなというふうに感じております。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） はい。言われた通りなんですけども、市民の皆さんから、どのような反応、声が聞こえてるのかなっていうのもありますけども。それとあわせて、いわゆる広報広聴委員会のほうでもなんですが、議会報出したりする。その時にやっぱり我々としても、意図的にね、その辺のところを打診してみるっていうぐらいなことをやらないと、帰ってこないかなと。やっぱり我々自身も、市民の皆さんと議会がこう近づくような努力もしていかなきゃいけないのかなというふうに思ったりしてますので。その辺のところも含めて、これからの対応でしょうかね。その他に何かございませんか。特によろしいですか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） はい。それでは一般質問についてはね、何て言いますかね、期日っていいですか。別にこだわらずにその前から準備してください。それしかない、はい。あとは、③の最終日の委員長報告について、委員長さん今日、おひとりですけども。これについてのご意見をいただきたいと思います。まずは、委員長さん。

○横尾委員（横尾祐子） 今回から委員会も2つになりまして、人数も多くなりました。初めての委員長ということで、委員会もそれなりに皆さん一生懸命発言していただいて、報告する事例もたくさんありました。宮崎副委員長と一生懸命、どの方の質問も取り入れようという形でさせていただきましたが、本当、7ページちょっとあるぐらいのたくさんの委員長報告させていただきましたが、今後も、どの方の意見もなるべく市政に反映するような形で報告したいと思いますので、今後も頑張りたいと思います。

○委員長（霜鳥榮之） はい。総文のほう、じゃ、はい。葭原委員。

○葭原委員（葭原利昌） 天野委員長と事前にお話をさせていただきましたので、その結果をお話させていただきます。それこそ、何度も何度も登壇する形じゃなくて、一度に登壇して全部というのは非常にそれはよかったんじゃないでしょうかという話。それからもう一つは、議案第何号、妙高市一般会計決算認定云々を、その都度話しますよね。あれはもう省略させてもらいたいぐらいだと。例えば議案第7号は言っても、そのあとの一般会計だとか補正だとか何々会計だとか、あれはもう2度目からは、議案第何号まででいいんじゃないかというお話でした。聞いているほうにしても、しつこいですよね。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） はい。聞いているほうの側で皆さんいかがですか。

○宮崎委員（宮崎淳一） 私ちょっと今回に限らずですね、常任委員会での審議の内容なんですけど…。

○委員長（霜鳥榮之） それは下の項目でやります。ここは本会議のところですので。

○宮崎委員（宮崎淳一） わかりました。

○委員長（霜鳥榮之） 委員長報告。聞いてる立場で皆さん。

○渡部道宏委員（渡部道宏） いや、確かに聞いている立場としては長かったですよね。むちゃむちゃ長くて、報告の最初の内容はだけど、だんだんだんだんそれを理解してるうちに、それこそ渡邊能成委員と一緒に、最初のことを聞いていてうんうんと思ってるんだけど、だんだんだんだんそれを咀嚼してるうちにわけわかんなくなってきた、他議案やなんかとみんなごっちゃになってくるから、最終的な報告のときに一体何だったのかな、みたいなイメージになってるので。それでまたその委員長報告の中でも、本当に大事だと思うところが実は短かったり、どうでもいようなところが取り上げられたりっていうので。ですので委員長報告については、今回に限らずなんですけども、全員に均等じゃなくて、委員長が本当に大事だと、市民に大切だと思うところだけ抜粋してもらって、それをしゃべれなかった委員の責任ですので、そこらあたりこだわらずにやられたらどうかなというような気がしました。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） はい。他にどうですか。

○阿部委員（阿部幸夫） 私も聞いてて、それはあれだけのボリュームを短時間でやるわけですから、大変だっただろうなというふうに思いました。それから聞いている側にすると自分がやりとりしたことが入ってたかなあというのも気になる場所なんです。私も以前までは報告をしてきたわけですけども。やっぱり少しポイントを押さえて、短くしないと聞いている側としてはもう本当に、非常にごっちゃというか、なかなか整理ができなくなってきたような部分に、余りにも時間がかかり過ぎてるような気がしますので、少しそこら辺はもう少し思い切って削って、みんなの質疑を挙げたいんですが、そのような形にしたほうが、かえってわかりやすいのかなと思いますし、一応中身については、もう議事録のほうに任したわけですから。そんな形にしたらどうかという感じがしました。

○葭原委員（葭原利昌） その話ですけど、例えば上越市なんかはもうそういう報告なんかなくて、全部議事録にゆだねます、譲りますっていう方式を取られてるということです。今の阿部委員のお話。だからそういうことも踏まえた検討も必要になってくるんじゃないでしょうかと思いました。

○委員長（霜鳥榮之） 他にどうですか。

○横尾委員（横尾祐子） ちょっと 15 年もいますと、過去の人のね、委員長報告も 40 分だったり 45 分だったりする時代もあって、それから半分の 20 分になったりしたんですけど、本当に 30 分あそこに立っていると頭がボーッとしてきて、目も視力はあるんですけど何か同じ文章ばかりで先ほどのね、44 号が何度も出てくるのでね、本当に削った部分もあったんですが、今回は宮崎委員と初めてなのでなるべくね、皆さんのことって思いましたが、皆さんからそう言っていただくんなら、もう本当に重要なことで簡潔にやれるように今後いたします。ありがとうございました。

○委員長（霜鳥榮之） 報告長い短いっていう形もありますけども。要は人間、どれだけの時間集中力を保って、どれだけの時間持つのかという、その辺のところもあるんですよね。システムを変えなきゃ、そうならないってのが一つあるんですけども。私はこれはとにかく予算と決算の時だけなんです。従って予算と決算の時は、予算関係決算関係っていうことだけでもって一区切りにしてしまうと、先ほどの総括質疑との絡みの関係も含めて、もっとすっきりするのかなというふうに思ったりするんですよね。予算との連携でもってね、例えば条例の関係とか、事件議決の関係とか、或いはその補正予算とかまで一緒にしちゃうから聞いているほうも余計にわかりづらいというのがあると思うんだよね。だけれども予算決算はそれだけをできれば独立させちゃって、その他のやつはまた一括でも、というような形でね。そうすると、お互いに報告してるほうもそうだし、聞いている人もわかりやすいという形になるのかな。ただ、私は聞いているっていうのは、我々だけの話じゃなくて、もし市民の皆さんも、それを聞いててく

れた場合にはどうなのかっていうことも、一つそこに入れておく必要があるのかなというふうに思ったりしてますんでね。これなんかだって、次のステップまでっていうことでもって、検討課題なのかなっていうふうに私思ったりしてるんですけどもね。そんなふうに私自身も思ってるというところでございます。他に皆さんいかがでしょうか。特段よろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜島榮之） はい。それでは、本会議については①②③以上のような形の中で、これはまた当局とも調整したり、意見のすり合わせしたり、その前に全協でもって皆さんからきちんと所感を述べてもらうっていう形をとったりっていうことで進めていきたいと思います。2番目についてです。委員会についてです。3常任委員会から、2常任委員会になりました。そんな絡みの中で所管が増えたっていうのと、或いは課ごとに所管課ごとに入れ代わり立ち代わりっていう形になってきてという形になります。この辺のところ、トータル的に見て皆さんからご意見をいただきたいなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○宮崎委員（宮崎淳一） 所管が入れ替わりというところもあります。ただどういうふうにその所管を持っていくのか、所管のこの割り振りをどうしていくのかっていうのは、ちょっと改めて検討していかなくちゃいけないのかなっていうのは印象にありました。それと何て言いますか、審議する所管が多いわけですね。その中で2日間ありました。ただ2日間の中でどうだったかという、それだけ深掘りができたかっていうと、いや実際そうではなかったというのが印象にあります。なぜかといいますと、なかなかですね、今回決算議会でした。その決算に対する質疑というのがなかなか、決算以外の質疑が多かった。やはり今回決算でしたんで、決算以外の質疑というのは、議員、委員の皆さんそれぞれちょっと改めてですね、何て言いますか、再検討していただきたいというのがあります。副委員長という立場で、前のほうで皆さんと一緒に審議をしましたけども、なかなか審議を指揮する委員長さんの段取りっていいですか、そういったのもちょっとなかなか不具合が生じてるというのがありますので、やはり決められた時間の中ですっきりと終わらせる。これがやはり一番いいんだと思うんですよね。その中で質疑の仕方それぞれ議員さんも、改めて勉強していかなくちゃならないっていうような印象がありました。以上です。

○渡邊能成委員（渡邊能成） 今、宮崎委員、決算の質疑だけに絞ってという話あったんで、それはおっしゃる通りだなと思うんですけど。しかしながら、決算というのは数字だけの問題ではないです。今年どういう事業やって、この金額になりましたという話ですので、要は、その事業に対してどんな内容だったんだろう、これはこうしたほうがいいんじゃないっていう質疑は当然やるべきだと思いますし、ただ数字だけ確認してたんじゃ、議論にならない。ただの数字合わせでしかないのです。その辺りもぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。あともう1点、委員会での所管の入れ替えを今回からやられてるんですけど、所管の入れ替えに関して執行部側は多分ずっといるわけじゃないから、各課ごとに入れ替わることで非常にありがたいと思うんですよ。ただ、何か、ちょっと思ったのが、業務で課が重複してるというか、関連がある業務っていうのは、多分、先日の委員会でも皆さん思われたと思うんですよ。例えば、有害鳥獣とかっていう話だと農林課と環境生活課。あと道の駅、こっち側のほうは、防災の観点で総務課とか、いろんな課がこう入ってるわけなんですけど、ですから課を全体を入れ替えるのではなく、その関連する課は同席させるべきかなというふうに思います。以上です。

○委員長（霜島榮之） 他にどうですか。

○渡部道宏委員（渡部道宏） 宮崎委員とかぶるんですけど。関係課の入れ替えってのはその時間調整の中で、もうすぐ終わってしまうのがあらかじめわかっているのに、その課にある一定の時間を与えるのではなく、終わりそうな課はやっぱりもう違う時間配分を上手にして、委員会を効率的にやりたいということですよ、具体的には上下水道課、午前中のあんなところへなぜもってきたんだと、あれ最後に持ってくればもっと早く終わったんじゃない

かと、そういう感じですよ。これ渡邊能成委員おっしゃる通りだし、決算なので関連ということになれば全部やっていかなきゃいけない。ただ、やはり議員の勉強不足も否めなかったと思うんですよ。そんなところは所管課に行って聞いてちゃんと事前に調べておくべきだろうというようなところまで聞いてしまったというのも多々あったと思います。ですのでこれ議員の質の問題になるんですけども、もう一度、委員会は本当は深掘りするところなんだけども、もっと深掘りするには自分の知識もないと深く掘れないよってというのは周知したほうがいいのかなと思いました。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） はい。他にどうですか。いいですか。

○宮崎委員（宮崎淳一） 今回の常任委員会の中で、議員にあるまじき発言、言動ですね。やはり、これは一定のルールの中であるわけですから。謹んでいただきたいと思います。それを采配する、常任委員会の委員会審議を采配するのは委員長さんなんで、委員長さん以外は、それに関しては何もできません。なので、しっかりですね委員長さんこの審議を取り仕切るリーダーとして、しっかりとした対応をしていただきたい。やはり、そういったことで市民の方からも話を聞いてます。しっかりと対応してくださいということで、ご意見頂戴してますので、よろしくお願いします。

○委員長（霜鳥榮之） 他にどうですか。よろしいですか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） 全体通してなんですけどもね、総括質疑をやってそれ以外は委員会審議を深めてっていう形でいっていた中で、やっぱり委員会審議そのものについては皆さんみんな事前に準備をしてってこういうご意見がありました。そこを当然のことながらそれをきちんとやってなかったら、やっぱり総括質疑を別枠でこっち持ってきて後はみんな委員会審議ですよっていう、この辺のところが成り立っていかないっていう形が出てきますのでね。で、審議のやり方についても、それぞれ個人それぞれという形もあったりしますし、その辺のところはお互いに認識を深めていかなきゃいけないことなのかなと。それと他のいわゆる所管課が跨いだりって言った時には、やっぱり予算決算の審査するときの一覧表が出てきますのでね。あの辺のところを今後有効に活用する中で、連動させていくということが、そこをうまく使っていけば何とかなるのかなというふうに思ったりしますので、これも検討していく必要があるのかなというふうに思います。そのほかになければ、この件については…。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） はい、じゃ、委員会の関係についてはそのようにお願いをいたします。3番目にその他ということでもってトータルでもってご意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○葭原委員（葭原利昌） この前にもお話あったと思うんですけど、いわゆる総括にしろ、一般質問にしろ、締め切りですよ。それについて、非常にやっぱり短くて、短いのもそうですし、例えば総括質疑の関係では2日間しかないという問題。それから逆に今度一般質問の場合は逆に一般質問を実際にする2週間も前に質問事項出すんです。ですんで、そこら辺のバランスがちょっと欠けてるんじゃないのかな。それについて今度の3月議会については、ちょっと善処していただきたいなっていう思いです。

○委員長（霜鳥榮之） まあ、ルールがあって、当局との関係があって、何とはなしにっていう部分も、ねえこともねえのかなと…。改めて見直してっていうよりも再確認をするということにしておきたいというふうに思います。じゃあ、この件については、よろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

4) その他

○委員長（霜鳥榮之） それでは4）番目のその他で、今後の会議等の予定ということで、現時点で日程がわかるものについて記載してあります。それぞれ皆さん、よろしくお願いをしたいと思います。議長何かありますか。

〔「特にありません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） その他何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） 特段なければ、以上をもちまして、議会運営委員会を閉会したいと思います。よろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） それでは、議会運営委員会を閉会といたします。ご苦労さまでした。

閉会 午後4時20分

議 会 運 営 委 員 会 委 員 長	
---------------------	--